

舶工 第426号  
令和7年10月28日

## 報道各位

第33回舶用技術フォーラムをライブ配信で開催

一般社団法人 日本舶用工業会

当会は、10月24日、オンラインツールによるライブ配信形式にて第33回舶用技術フォーラムを開催した。

下記プログラムのとおり、第I部では、日本財団助成事業として令和6年度に終了した新製品開発助成事業の成果発表を、第II部では、2025年6月26日より発効したシップリサイクル条約への理解を深めるとともに、舶用工業関係者に求められる対応について、関係者による講演を行った。何れも今後の市場展開並びに技術開発に資するプレゼンテーションであった。

当日は、WEBセミナーであったことから、会員企業の他、海運会社、造船所等の120社、160名以上の視聴登録があり、例年同様、多くの参加者を得ることができ、本フォーラムは成功裡に終了した。

当会としては、今後もオンライン方式の活用を含め、当会の魅力ある事業活動を広く発信していく予定。

《プログラム》

<オープニング> 15:30 配信開始

・ご挨拶

一般社団法人 日本舶用工業会

専務理事 矢頭 康彦

<Ⅰ部：日本財団助成事業成果発表> 15:35～16:00

・ 舶用次世代燃料エンジン用の無酸素下でも検知可能な水素ガス漏洩検知センサーの技術開発

理研計器株式会社

品質管理センター認証管理課 エキスパート

佐藤 裕之 氏

<Ⅱ部：シップリサイクル条約への理解と、舶用工業関係者に求められる対応>

16:00～17:00

・ シップリサイクル条約の発効に伴う国内対応

一般財団法人日本海事協会

認証本部 環境部 技師

谷口 龍也 氏

・ 日本郵船グループにおける船舶リサイクル取り組み

日本郵船株式会社

バルク・エネルギー事業統括グループ グループ長代理

兼 製鉄原料グループ 調査役

片山 潤一 氏

企画グループ 海運政策チーム チーム長

盆子原 渉 氏

<クロージング> 17:00 配信終了予定



Supported by THE NIPPON FOUNDATION

## 日本船用工業会 新製品開発助成事業

### 船用次世代燃料エンジン用の 無酸素下でも検知可能な 水素ガス漏洩検知センサーの 技術開発（2023年度/2024年度）

2025年10月24日  
理研計器株式会社  
株式会社三井E&S



講演①（理研計器株式会社）

ClassNK CHARTING THE FUTURE

## シップリサイクル条約の 発効に伴う国内対応

一般財団法人 日本海事協会  
環境部 谷口 龍也



講演② ((一財)日本海事協会)

日本郵船グループにおける船舶リサイクル取り組み

→

2025年10月24日  
日本郵船株式会社 バルク・エネルギー事業統轄グループ 片山 岳一  
日本郵船株式会社 企画グループ海運政策チーム 直子原 涉

日本郵船



講演③（日本郵船株式会社）